

校刊「鉄翁書簡・附鉄翁宛書簡」

鶴田武良

解題

長崎県立長崎図書館渡辺文庫蔵「祖門鉄翁」(渡辺文庫316—18—124)から鉄翁書簡二十五通、鉄翁宛書簡二通を校刊する。

「祖門鉄翁」は「畫乘要略」、「竹田莊師友録」などの刊本をはじめ、大光寺過去帳、円月堂過眼手録、その他さまざまな資料から鉄翁に関連のある箇所をB5判大の白紙に抄録したものである。表紙とも八十七丁。その第五十八丁表から第八十丁裏までが「鉄翁書翰集」に、第八十一丁、二丁が「鉄翁宛書翰集」に当てられている。

「鉄翁書翰集」には二十六通の書状が抄録されているが、うち一通は「鉄翁畫談」(アルス版「日本画論大観」上巻では六百四十一ページ第十四行から六百四十二ページ第十四行まで)にすでに公刊されているので省き、ここには未刊の二十五通を紹介する。

なお、筆者は渡辺文庫の他の筆写本の書体から推して、渡辺庫輔氏と考えられる。校刊に当って、便宜上、一通毎に通し番号を附し、読点を打った。本文右側の注のうち、括弧のあるものは編者の、括弧のないものは抄録者の注である。校刊に際して変体仮名は平仮名に改め、解読できなかった文字は□で表した。また、原書簡では、本文を書き終へてから元に戻って書いた、返し書きと考えられる部分も「鉄翁書翰集」では原状のまま、始めに置かれているが、ここでもそれに従った。

二

次に鉄翁書簡の名宛人について簡単に記しておく。人名の下の数字は番号である。

- 1 木下逸雲(一一八、九、二十二)  
「国華」千九十八号所載、拙稿「鉄翁・逸雲・湘帆について」参照。
- 2 木下志助(十)  
「祖門鉄翁」の抄録の右側にマ、とあり、原書状の文字がすでに明瞭でなかったことが知られる。木下志賀之助逸雲ではなからうか。
- 3 木下勇之助秋塘(十一—十四、十六、十七、二十、二十一)  
諱は隆衡、字を孟平といい、秋塘と号した。逸雲の兄木下潤太郎の長男。逸雲について画法を学び、細緻鮮麗な筆法の花弁翎毛、山水人物をよくした。また肖像画にも巧みであった。「墨林今話」にも略伝が出ている。文久元年一八六一九月十六日卒、四十九歳。
- 4 木下少蘭(十五、十八、十九)  
通称幸、字を素燕といい、少蘭と号した。八幡町乙名木下清左衛門の娘で、逸雲の姉に当る。画事を好み、始め石崎融思に画法を学び、やがて南宗画にかわった。終生独身で、明治元年一八六八十一月十六日卒、七十二歳。  
(以上二項は古賀十二郎著「長崎画史彙伝」による)
- 5 甲原玄易・玄寿(二十三)  
未詳。
- 6 錦水(二十四)  
未詳。
- 7 倉野儀七郎(二十五)  
筑前山鹿の陶商。名は儀七郎、通称儀兵衛、諱は義寿、号は煌園。早くより画事を好み、のち鉄翁に学んで蘭竹をよくし、鉄翁の歿後「鉄翁画談」、「鉄翁画譜」を刊行した。文政十年七月十六日生れ、明治二十九年三月二十四日卒。一八二七  
(前田淑著「鉄翁画談」と倉野煌園」による)

一、木下逸雲宛

木下皆々様御安全目出度事に御座候、

八月廿八日出之貴翰九月五日落手拜読了、先以先生無別條御安全之由、重々珍奉賀候、拙老儀も漸得此時候ヲ待迄打臥迄之病氣も無之、シカシ風邪ハ時々ワツライ申候得共、一七日位ニテ起上り申候、先生モ定而神事前ニハ御帰郷と相樂申候得共、未其儀無ク、御上京モ今ニ出来不申事□シカシ御安居至極之所が宜敷哉、田舎ハスベテ随意ニナルモノ故、養生ニモ甚カナイ可申候、

扱御宿本之御送之画山水拜見仕候處、何レモ妙品之内、滿月青山是故人之題字、山水別而工ニ御出来ト存申候、次大幅筆画品古雅ニ御出来感心仕候、又不二山珍敷トント正ニテ御座候、紅葉之図、嚙々今頃は所々御出浮御覽ト察申候、長崎表、画事同腹之人無之、皆清俗ニ落入、画工之様ニ被成候故、話出来不申、門人湘帆、此者ハ少々ツ、心カケ毎度今ニ参リ申候、今、志賀介殿も當時御目附御用達ニ而日々無

閑之事故、其上市中モ御同役衆モ此節ハ大ハゲ之出勢<sup>ア</sup>之由、是ハ江戸役人<sup>(調)</sup>シラベヤク<sup>(役)</sup>杯に對シテノ事之由、何分此時節、何ト云事ヤラ拙老杯ハ心モトナウアヤウク<sup>(思)</sup>ヲモイ<sup>(思)</sup>ヲリ申候、トテモ今ノ様ニテ長崎表ハモチロン御御世<sup>(案)</sup>ハンジャウ<sup>(昌)</sup>トハ<sup>(思)</sup>ヲモワレ不申候、何事ニ御ナツミ被成候事ヤラ、一モトラズニモトラズ、異国ニ<sup>(恐)</sup>ヲソレ、イヨく<sup>(捨)</sup>異人氣マ、ヲゴリ候事承リ、クチヲシキ事共ニ御座候ト申テ、世<sup>(捨)</sup>ステ人ノイラヌ世話ナガラ、久敷国恩ヲ蒙リ候事故ナゲキ申候、

御存ノ通り拙寺毎年被下候御合力銀、イツモ七月盆前ニ被下候所、今ニ御裏印モ相濟所持仕候得共、其上毎度御代官迄ナケキ候得共、出銀無之、会所ノ役人ニ承り候得は、会所ニ<sup>(さつぱり)</sup>サツハリ無銀、只丸異国銀錢バカリノ由、其銀錢も市中ニテハトリ候人ナシ、廻文ニニ通用仰候得共随フ人ナシ、扱<sup>(兼)</sup>ヲトロエタル事共ニ御座候、日本

人ノヲモイハ先天子・將軍家・大小名ト萬々歳ト祝シ、此上モナク<sup>(尊)</sup>トヲトク<sup>(敬)</sup>ウヤマイ、其命令ヲツ、シミ恐來候處、今外異国ノ者共、御奉行モ御目附衆モ外国人ノ下手ニ

アリ、官モ下ニテアル由、異国ノ者共が申由、ソレ故奉行目附之前ニテモ日本ハ小国故、若戰爭アラバ日本ハマケト申事口ヒロク申由、左様ナ失礼申テモ異国人ヲトリキメル事サイナラズ、ケツク恐入タル趣セラルル段、内々も承知仕候、是ハ其人

ノヲクシテノ事デハアルマデ、江戸表も深き御サシズナルベシ、江戸表モ此様ニ長サキ表下々迄ナリハテル事トハ、自然日本之為アシクナル事トハ、執政ノ人モシリ玉ワヌ事ヤラト存申候、何共阿蘭陀スキも事起リ、今ニテハウラメシク思方イクタリモアリ、御存ノ通りナリ、元々実学ナク、古人ノ句ガラバカリヲボエ、古人ノ行モ心モスカタンバカリノ学者達バカリニテ、皆トシヨク非道も事ヲコリ申候事ト存申候、

拙寺并雲龍丹桂、此節漸九月四日も発シ(註・凶あり)、菊花未、是當月末十月ナリ不申ては開不申ト存申候、其地ニテ如何共ニ候哉、白蓮ハ小池ニ直し、五月初も数本、八月中迄残花有之候、百日紅ハ今ニ残アリ、蘭青董當年ハ三四度花ヲ出シ申候、是モ八月中サカリニ御座候、今ハ小蘭計咲居申候、素心当年ハ未見、花少々ワツライデモ出来候事ト存申候、是も追々冷氣トナリ、画事モナシヤスクト樂ミ申候、先ハ御請旁々 早々頓首、

九月五日  
逸雲先生  
侍史

鉄翁合掌

二日、乍憚知音之衆之別書不仕候故、御出會之節、皆々之も宜敷御伝声奉希候、

二、木下逸雲宛

八月五日出之尊書、同十日落手拜読、先以先生弥々御安全奉賀候、野拙儀も無別條罷在御休意可被下候、如仰今年モイヤナ病流行、大分、人も死去申候、其上当地モ西洋国之様ニ相成、此末は如何共ナリユク事ヤラ、今者カレラガ持渡の書共、皆表向ニテミル様ニナリ申候、扱<sup>(見)</sup>モく<sup>(見)</sup>氣之毒ノ事ナリ、先年ノ通りニハ何事モカワリ

ハテ申候、諸事時之間ニ合迄之様ニ外見ニテハミヘ申候、是ニテ定マルト申事一切ナシナルホドサダマラヌ<sup>(世)</sup>中故ト存申候、春徳寺も住持病死、依之又々世話仕居申候、後住モ漸見出シ、此節禎ワ京迄使僧ニ遣シ可申、此十一二日出立可仕候、当春同人帰国之節、ウリモノト申者ハ拙所持之周之冕卷、子昂馬之卷、外ニ青緑ノ山水三品持ノボリ、ソレヲ

拂、買物仕、下り候様申付候得共、當時上方文人、南画も外金ニナルモノハ外ノ画ニテハヤスツケ故、其儘モチカヘリ申候、唐人山水花卉認候者一兩人参リ、未面談モ可仕、書ハ可ナリ出来候得共、林夢龍程ニハナシ、画ハ至テ下手ニテ御座候故、

ホシクモナシ、残暑甚敷故、筆トリモ出キ不申、但々半病人ニテ養生計仕居候、涼風ニ相成候ハ、取出し、御評ニモアツカリたし、道行三十年之修行世ニアリカタシ、工拙ヲ論ズベカラズ、未世トテモタノモシ、眼ノ明暗ヲ云ハ他ノ事自身、能々可養事ト存申候、

追々好時節、秋之ナカメモ此方ニテ、先生ヲウラヤマシク思申候、乍憚知音之衆も宜敷御伝声可被下奉希候、早々頓首、

八月十日

鉄翁

逸雲先生

当冬迄ニハ客殿庫共、大普請仕度存念ニ御座候、トテモノ事ニ庫モ先年之スマイニ致シ度、且客殿屋根破レ故、是非共世話セネバナリ不申、金ハ時節アシク出スモノ無シ、用入申候講ノタメ銀、潤筆ノタメニテタリ不申、ヤハリ世外ニモ右様之事御座候、御察し被下かし、

三、木下逸雲宛

手製青海苔、道中用ニ仕度製申候所、半分ワケニ呈送仕候、御笑味被下かし、皆々之も乍憚宜敷、一先上京之後、其地ニハ遊ニ参リ申度、

時下漸暖和相成申候處、先以御壯健之由珍重奉賀候、然野拙儀先達而申上候上京之事、折角思立候事故、此十五日十六日頃迄ニ発足仕度念ニ御座候、先生ニも種々御談し申上度事共候得共、御帰ニも不成故、残之事存申候、若又、其時分チクセン陳揃御一見御出共ニ候ハ、廿日頃カ廿一二日ニハチクセン地之向ケ参上仕可申候、其節拜眉萬々申上度、野拙老年ニ而思立事無余儀仕合、是も但法恩之<sup>ナラシ</sup>惟謝、分骨碎身ト迄ハ不至候得共、少々勞仕度、道中之事共、老年無覺束、幸、孝<sup>（木下志賀介遠江）</sup>之助殿上方一見望候事故、同伴仕度、是も未御役相続相濟不申、何れ兩三日内相濟可申候、左様之事共仕舞次第発足可申、其上認物如山大困申候、然先生御所持之大カケ幅拜眉申上候事思出し、先年拙本山之<sup>ア</sup>ケモノ一幅寄附之約束仕置申候、先生之幅二幅之内、何れ成共御拂ニ相成候分一幅申請度、其御談も申上度、且其外之幅共、拙幸上京仕候間御事ツケハ如何、是も申上度、何事も直拜眉上申上度、余事略之、早々頓首、

三月十日

逸雲先生

四、木下逸雲宛

昨日漸、画史彙伝手ニ入申候、代金六十六匁七分六厘ナリ、

五月十七日出之御返書、同二十二日落手、先以御健勝奉賀候、嚙々御イソカシク奉察候、随分何事も御イトイ御自愛專一奉折候、絹地山水之事御申越委細承知仕候、持合ノ絹共沢山候間認送可申候、何分此節之便二間ニ合不申、後便差送可申、又外二何事も相応之御用向候ハ、仰被越度、匱菓<sup>（匣）</sup>茶箱呈送仕候、其地、茶共ハ何分候哉、若御不自由ニ候ハ、御申越被下かし、先期後便可申上候、早々頓首、

五月念三日

鉄翁

逸雲先生

○毎度乍御面倒、此扇子永野氏之御届、残ぬの大幅四幅分ハ何分イソカシク取カ、り得不申、イチド<sup>（二）</sup>キニドットキテハ大困、カキタムナシ、ソレデモイロノ進物共候故、是ニテイヤ共イワレズ、以来、以前進物受間敷存申候、

○伊万里中村氏<sup>（五）</sup>塩大俵<sup>（六）</sup>ツ送來申候、是ハイツソヤ御ウワサノ品ト奉存候、至極味ヨロシク、是又御蔭ニテ手ニ入申候、御宿本ニも申候、中村氏鼎山ト申人ノヨシ、兵子<sup>（七）</sup>承リ申候、是ニモ近日札書共遣し申度○拙筆画之事御申越、書置候画無之、明日便御座候由、木下<sup>（八）</sup>申來、今日ハイツモニナク用事タ、ミカケ、兼而此間ハ筆取不仕、急ニ一二張認封し上ケ候、是又後便念入り送り申上度、此節ハ不出来ナカラ差上申候、御笑、

五、木下逸雲宛

向暑之節候得共、先以先生増々御安全奉賀候、随而野老無別條打<sup>（九）</sup>二光罷在申候間、御安意可被下候、先達而便御書并絹地墨蘭認、此節松勘其御地之向ケ参上仕、何れ先生之御尋問可仕由申候間、委細同人舌上御聞被下度、蘭画此節之便二間ニ合不申、種々取紛、未<sup>（十）</sup>京、大坂、近江、高松、伊勢、越前所々之画も一張も出来不申、当春共ハ其御地之遊度存念ニ候處、今日迄他出難成残念之事ニ御座候、近來は所々<sup>（十一）</sup>認

物持出し大困申候、一日も閑無御座候、其上、本寺方丈之普請初メ申候、是も来年迄節々可仕候、先は御伺旁々、早々頓首、

四月十一日

雲龍閑居

鉄翁(花押)

逸雲先生

二白、伊與やナベヤ、其他皆々之乍憚宜敷御伝声被下かし、去冬、来舶持渡山東菜粕漬ニ仕候間老包、同舶持渡落花生老包呈送仕間御笑留被下度、別封蜜柑漬乙包秋艇先生之御届、聊表音信被下ウ、笑々、又々頓首、

六、木下逸雲宛

復上

正月廿日出之御書忝拜読仕候、先以御安泰奉賀候、随而野拙無別條消二光罷在申候間、乍憚御休意可被下候、当春は故郷之花共見物仕相楽ミ可申、折角貴兄之御帰ヲ待上候、扱東国上方四国中国も皆貴兄之大名行届懇望仕居候、サリナカラ御改革後、元之様ニは急ニ難成、所々大ニスイビニ至リ申候、京師御即位之事も風聞は承り候得共、弥之事ハ不承、善光寺本尊開帳之事ハ必定承リ申候、京師ニては貴名老包、大阪ニ而耕石一人、江戸ニ而はミツケノ半江、牛天神下椿山、是等はアイカイノ弟子也、青小僧ニ而其余ハ無御座候、京之春琴も去春死申候、尾州覚正寺伝言アリ、江戸戸倉和尚も同様伝言アリ、東山父子共ニ氣ニ入不申故ソコノ也、四国辺、都而画人ハ介趣一人、其余風流人多、書珍藏家アリ、何分御帰アリテ其上御話共仕度、上方御上リモ一兩年ハ御延しも宜敷哉と奉存候、野拙も時節早ク御座候故、張込認参リ不申候、伊勢杯ハ宜敷、中国宜敷、大坂中位、四国同断、江戸わろし、南都ニ承リ不申候、先は御請迄、早々頓首、  
此菓子ハ外ニ到来、開キ候而はもしわるいとかがあけられず、よいつもりてあけまする、安国和尚如何共に哉、御次手ニ宜敷、光明寺も近々出崎のよし、是又よろしく、

二月十三日

鉄翁合掌

逸雲先生

おてい様へも宜敷御申被下かし、

七、木下逸雲宛

時下甚暑之節ニ御座候所、先以貴下増々御安泰奉賀候、随而野拙先達而も疝シヤクを引出し、時候風邪打臥十四五日、今者漸快方ニ相成、其外者無別条、木下も無別条御安心可被下候、先五月十六日出之御書、同廿八日落手拜読、又毎度御心ニカケ、納涼ニ可参段仰難有候得共、此方も正月十八日と雲龍寺内造作、今ニ仕舞ニ不成、又本寺も此節大普請仕、種々取紛、他出も出来不申、残念之至、殊更此暑中、道中何分ト存、思立兼申候、扱々久々不得拜顔、御ナツカシク、乍憚其地之人々も秋艇君其外伊與や之も宜敷御伝声奉希候、此節大久子其地之被越候故、委細御聞被下かし、先者御安否御詞迄、早々頓首、

林鐘十日

雲龍閑居 鉄翁

木下逸雲先生

手製矢上海苔乙曲、是ハコレ中シメリ候事故、其地ニてほひろニ御入レめし上られかし、又かのふ青海老曲、是ハすぐニめし上られ候やふニあんはい仕置申候、ほいろニおよばず、  
拙画不出来ナカラ貴久様仰被下候趣、元来の痴筆、此節之間ニ合不申、シカシ極不出来一二張共呈送仕候、御笑々、  
其地大原社仙助能興行のよし、扱々ウラ山シ、此節は長サキニモ芝居角力共御座候得共、拙事異形ニ候故、人中ニハ出不申候、ヤハリエンリヨ多ク御座候、残念々、  
二白、五岳上人ニ御逢之節、画今ニ延引仕恐入、何分涼風ヲ御待被下候様左様御申被下度、  
三白、太刀之事、何共宜敷御頼申上候、代金様之事も何とも仰無之御為知被下かし、  
八、木下逸雲宛

今日、幸之助子と書付到来、是又承知仕候、茶ウス仕上ケ迄、拙出錢致置、大分始定候も過分ニ相成、先ツ木下迄遣し置申候所、アレハイツレノ道具トナシ

(木下志賀介瓊江)  
(始め定め)

可申哉、主未定、何分共ニ仕候而宜敷ヤラ、其儘ニヂツトシテアリ、大和ヤハ  
モホシキ由先日承、何分御帰迄其儘カヨカト申候、

一翰呈上仕候、時下寒氣之節ニ候得共、先生弥御安全奉賀候、拙儀無別條罷在候間、  
乍憚御安意可被下候、当冬長崎表久振之積雪ニ而数日消之不申、雪景も見事御座候、  
其御地杯は寒氣も強處と承、何分共候哉、雪も深事と遠察申候、長崎は西方極樂ニ  
近處故、無事ニ而安心仕候、拙儀も来春早々上京之存念先日申上候得共、上方騒動  
向々穩ニ相成不申候而は、御示之通り愚ナ事と存、先二三月頃迄見合延引可仕了見  
ニ御座候、何れ来春貴君御帰郷待上、萬々御相談共仕度、書外拜眉迄申上度、先者  
早々頓首、

茶事ハ無欠仕居申候、大分手ナレ安心モ付申候、是ハ一生ノ徳也、先生の  
かけなり、ウレシク、未新室ニテハ不仕候、元日ヨリ座敷ノ方ヤテア  
ケ来年ハ始也、

十二月廿六日

雲龍閑居

茶ハ別等外、平日用不申、茶ナリ共人ニ馳走之ツモリ也、

九、宛名ナシ（逸雲宛カ）

此唐曆先日ヨリ封し置、段々延引、しかし未半年ニ候間、此便ニ送リ上候、唐筆  
二支、聊表音信迄呈送仕候間御笑留被下かし、且日田隅連中へも乍憚宜敷御伝  
声奉希候、又々頓首、

普請大物人、案外之事ニ成リ困窮仕候、御存の木付ヨリ陣場手当、当年は今日  
迄一文も送不來、是又あてちがひトナリ申候、大名ニモウソガアルトミへ申候、  
世の中ムツカ敷御座候、

連日之雨天其御地杯は如何ニ哉、扱々困入申事ニ御座候、先以貴下増々御安泰奉賀  
候、随而拙無別條罷在申候間、乍憚御休意可被下候、当四月十一日華甲之祝、三日  
客来仕候得共、上客之貴君独欠申候故残念此事御座候、誠ニ其後共種取紛レ御無音  
ニ打過申候、拙も漸五月十二日雲龍寺へ引移申候得共、今日迄も作事仕候而少しの  
閑無御座候、依之其御地之画共認送候事、此度の便ニも間ニ合不申間、大坪氏へ

も甚延引恐入申候、乍憚御出會之節候ハ、宜敷御伝声奉希候、余事後便申上度、早々  
頓首、

六月十日夜詔

雲龍寺は本寺之西手草庵ニ台所付ケ、天切二十五両ニ仕上ケ候筈ノ所、今ハ百両ニ  
テモタラヌ様ニ大工ヨリダマサレ申候、今更クヤミテセンナシヨリ銭無し大困り也、  
何れ拜面万々、扱々ナツカシ敷事、話如山、筆紙ニ難盡御座候、

十、木下志助（逸雲カ）宛

当賀申上候、先以御安全目出度、然は昨日七ツ時頃ヨリ御奉行所へ罷出、直ニ於御居間  
蒙仰候次第、夜ニ入引取、則皓台寺和尚其外一向宗之寺共一同参り、先皓台・春徳  
穩居別々ニ参り申候、余は如何存不申候、

浦上邪宗門愚人共一先正法之教化御相談ニ相成、一一御請、所存共申上候處、引取  
早々了間共、以書付申上候様被仰候間、荒増書付共致置申候得共、未全ク想中別  
ニ相談仕候人無、貴君今日間合候ハ、と存、御在宿哉如何、御尋申上候、先此段申  
上候迄、早々頓首、

八月十五日

鐵翁

木下志助様

極内々書

十一、木下秋塘（勇之助）宛

二月十八日小ヤノセヨ出

同廿四日伊藤□ヨ届来

ソレより十三日佐嘉高伝寺ニ二宿仕、十六日太宰府へ参詣仕、漸十八日小ヤノセ一  
宿仕、明日ハ小倉へ着仕候故、此夜寸書認メ申候、若大リニ渡申候ハ、書狀認候間無  
御座候故なり、扱出立ノ節ハ皆々様御厚情之不浅忝仕合奉存候、其日もよく日も御  
別レナミダニタヘ不申程ニ、日日も其方ヲおもひヤリ申候、何分早々見物仕舞帰申  
度、扱、種々不用之品共澤山持、人足ノ者迄も困候位、其上ヤラストヨキ人ニ迄進

物ニ致し荷物へし度、尤佐ニ而大分へし申候、今更コラクワイ也、何れ中国道中存念ニ御座候、猶又大坂え着仕候ハ、書状差出し申度、何卒皆々様宜敷御伝声奉希候、逸雲様も定メテ平戸へ御出ト奉察候、是又よろしく、先は早々頓首、

二月十八日夜

鉄翁合掌

秋塘様

十二、木下勇之助宛

乍憚逸雲様、少蘭君、おみさま様、おくら様、其外皆々様、おみつ様よろしく御申被下かし、

漸二月十九日小倉え着、其日風ハケシク候得共、大裏下関え渡海仕候、廿日ノ一日同所え滞留仕、荷物共又々シラベ、身スガラ杖一本ニ而大坂迄参り候存念ニ仕、是迄ノ人足、次場々ニ而甚困、且入費モヲモイノ外ニ出申候故、両掛ハ下ノ関々大坂え舟ニ而上セ、カゴハフゼンダえ頼遣、たはこぼんも一同長崎え送り、其御方様え向ケ下候様頼ミ遣し申候間御受取置奉願上候、寺の方えも宜敷御伝声奉希候、何れ大坂着仕候而又々書状便仕度、旅行ハ只ツへ一本外ニ何物モ所持可仕事ナリカタク、大ニ此節思アタリ申候、心配多クヤクニモタ、又品共多ク持参、何れ大坂も早々下シ可申次第ニ御座候、御笑々、京大坂も当時は御ランピンノ由小倉も承、芝居モツマラズト存申候、先は急便故、不能委細書、頓首、

二月廿日

鉄翁

長崎八幡町ニ而  
木下勇之助様  
無事要書  
駕籠其外四月十七日積入  
二月二十日下ノ関封発

十三、木下勇之助宛

二月廿三日出之尊書三月十九日落手拜読、先以各様御安泰之□□海外大慶仕候、野拙も無滞三月三日大坂え着仕候訳は先便申上候、今者病氣も大半快方ニ相成、一兩日内ニ上京仕度存候得共、カンジンノ荷物今ニ到着不申甚困り入申候、御註文之品々は一昨日□□三井□□取シラベ、樺島町中野迄下し方頼置申候、定而長崎着仕候

上御受取置被下度、荷物着次第ソレ々申付頼申度、ソレノミニ而未上京もナリカタク、日日、中筋屋迄便り聞ニ遣し候得共、当節は上リ風無之由ニ而チカラ落し申候、其内大坂ニ而追々シリ人多ク相成、画も頼ミおふく相成、是は但カキニテも無之候得共、ソレニカ、リ候而は見物もナリカタク、ソコノ二仕、上京仕度、サリナカラ荷物参り不申候而は上京も花ミル計ニ而何事モ出来不申□□東ニも難参困入申候、何舟ニと事失念仕候故□□モ出来不申、何れ後便何事も申上度、先は御請迄、早々頓首、

三月廿日

昨十九日角芝居見物仕候、久振二田十郎、由良介、九大夫、本蔵、若狭介、天川屋勤申候、上出来ニ而御座候、三軒芝居皆忠臣蔵ニ而、余は未見物不仕候、是も一応見物仕度存念ニ御座候、

○扱於□□長崎城越之珍事、扱々氣之毒千萬、野拙在在不仕事故、目ニも不見、大仕合ニ御座候、

○大坂辺、皆諸色高価ニ而紙ルイ共高値ニ御座候、京都も同様之由ニ御座候よし、○大坂ニ着仕候而初而大坂之には鼻ニ入、何共其氣味アシク、何トナクハナニ入、何ノノライ共ナク、きニ付不申ニまう時々ハナニ入困申候、

長崎八幡町ニ而

木下勇之助様

鉄翁

無事要書

二月廿日認 四月十九日中野も(渡辺註之ハ後ニ木下ニテ書入レタルモノナラン)  
十四、木下秋塘(勇之助)宛  
幸便一筆呈上、先以皆々様御揃御安泰奉賀候、野拙儀も今者病氣も追々快方ニ相成悦申候、連日之雨天、殊ニ氣候不好困り入申候處、三月廿二日大坂も川舟ニ而廿三日上京仕候、三條寺町下ル丹波屋源七ト申出入衣屋え着仕候、其日も雨天ニ候處、木屋町近與宅尋参り随分堅固ニ而大ニよろこび申候、其節座敷之事共申談、早速先年御親父様之御入ニ相成候宅ノ向手ニ廿四日衣屋も引うつり申候、主従二人雨中大淋敷、何れえ出申事難成困入、且又荷物到来不申故、大坂ニ而も仕方無御座候、嵐

淋敷、何れえ出申事難成困入、且又荷物到来不申故、大坂ニ而も仕方無御座候、嵐

山の花もちり申候よし、間ニ合不申、せめて残花成共と存、上京候得共、連日の雨ニ而不能三里之所歩行、残念至極ニ御座候、雨間〳〵二近所祇園知恩之残花共見物仕候、扱京都、此節天子不幸故諸事おんひん、本も至而淋敷上ニ又々淋敷、東山木ヤ町扱先年とは天地之違、誠ニ在所同様相成申候、美人もチラリトモ見不申、島原共不はん志やうのよし、荷物共上り候ハ、早々関東え向ケ、早々帰国仕度存念ニ御座候、先便大井手町の人え送書狀、定而今頃は達し可申、中筋屋又ハ中野え向ケ下し物仕置、是又達し可申、何れ又々後便申上度、早々頓首、

三月廿七日

柳田元策老え尋参り候所、殊外悦、夫婦共大取持ニ而、毎度使共参り申候、蓋物、<sup>(煮)</sup>に<sup>(差)</sup>しめ、種々漬物杯桶ニ入、門生持参、是又上り荷不仕故土産も持参り不申處、<sup>(格)</sup>かく<sup>(別)</sup>へつ<sup>(親切)</sup>ニ心節ニうけ申候而、貴家之事共いち〳〵安否とわれ申候、此方よりも御伝言共申置候、何事も柳田世話致可申と<sup>(親)</sup>シン<sup>(親切)</sup>セツ也、江戸堀ウタヤ重兵衛と申人、本は長崎の人、当時大坂人ニ成、是ちも大ニ志ん節ニ相成申候、一同此人共、同舟ニ而上京仕候、大坂ニ而も京ニ而もワダハマ乙九郎殿見舞二見へ、荷物之事共話し申候所、不用之品引受度よしニテ、荷物上候ハ、入用の品引のけ渡し申度、大坂京ニ而いたし方あしく候へば為にもナリ不申故、何トナル共渡置申度、先はあらまし申上候、又々頓首、

秋塘君

無事

(渡辺注・之ハウラニ記シテアリ)

鉄翁

十五、木下少蘭宛

幸便ニまかセ一筆申上参せ候、まづ〳〵御無事ニテ<sup>(虫)</sup>〳〵〳〵<sup>(い)</sup>わもし<sup>(お)</sup>事も此節ハ<sup>(煎)</sup>ばちても<sup>(煎)</sup>あたり候哉、とかく病気がちにて候所、三月廿二日大坂舟ニて上京仕、荷物も今ニ上り不申故、大坂えお取り候てハ、仕事もなく嵐山の花もちりはて申候よし、<sup>(魂)</sup>せめて<sup>(魂)</sup>さん花なり共見物仕度と雨は<sup>(晴)</sup>れま<sup>(上)</sup>のほり、<sup>(伏)</sup>ふしみ<sup>(見)</sup>ニて又々あめ、<sup>(雨)</sup>それ<sup>(木)</sup>ち日々<sup>(雨)</sup>あめ<sup>(雨)</sup>困り<sup>(不)</sup>入申候、<sup>(丹)</sup>廿四日<sup>(波)</sup>たんば<sup>(屋)</sup>や<sup>(木)</sup>ニつき、<sup>(木)</sup>あめ<sup>(木)</sup>ふり<sup>(木)</sup>候へ共<sup>(木)</sup>き<sup>(木)</sup>や<sup>(木)</sup>町<sup>(木)</sup>ニ<sup>(木)</sup>たつ<sup>(木)</sup>ね<sup>(木)</sup>参り、<sup>(近)</sup>與<sup>(近)</sup>殊<sup>(近)</sup>外<sup>(近)</sup>ふけ<sup>(近)</sup>いき、<sup>(不)</sup>うら<sup>(不)</sup>すま<sup>(不)</sup>い<sup>(不)</sup>ニてより<sup>(不)</sup>つき<sup>(不)</sup>も<sup>(不)</sup>なり<sup>(不)</sup>不<sup>(不)</sup>申<sup>(不)</sup>所<sup>(不)</sup>え<sup>(不)</sup>被<sup>(不)</sup>居、<sup>(小)</sup>小玉<sup>(小)</sup>沓<sup>(小)</sup>両<sup>(小)</sup>ニ<sup>(小)</sup>セン<sup>(小)</sup>香共<sup>(小)</sup>そ<sup>(小)</sup>へ<sup>(小)</sup>遣<sup>(小)</sup>し候所、大ニ〳〵よろこひニてたつねくれ候事大ニよろこびニて御座候、

<sup>(資)</sup>かし<sup>(座)</sup>さし<sup>(敷)</sup>きの事<sup>(事)</sup>申<sup>(申)</sup>出<sup>(出)</sup>候所、<sup>(資)</sup>自分<sup>(資)</sup>の座敷<sup>(座)</sup>ニ候哉、<sup>(資)</sup>さつ<sup>(資)</sup>そく<sup>(資)</sup>あき<sup>(資)</sup>所<sup>(資)</sup>御座候、<sup>(資)</sup>先<sup>(資)</sup>年<sup>(資)</sup>兄<sup>(資)</sup>様<sup>(資)</sup>の御座候所<sup>(御)</sup>のむ<sup>(手)</sup>かいて<sup>(手)</sup>ニ廿四日引うつり、扱かまなべ<sup>(釜)</sup>はかり<sup>(釜)</sup>ニて何もなく、あめ<sup>(雨)</sup>ふり<sup>(雨)</sup>いろいろ〳〵ま<sup>(ま)</sup>ニ<sup>(ま)</sup>あい<sup>(ま)</sup>候<sup>(ま)</sup>分<sup>(ま)</sup>も<sup>(ま)</sup>と<sup>(ま)</sup>め、<sup>(米)</sup>先<sup>(米)</sup>、<sup>(米)</sup>米<sup>(米)</sup>、<sup>(米)</sup>し<sup>(米)</sup>や<sup>(米)</sup>う<sup>(米)</sup>ゆ<sup>(米)</sup>・<sup>(小)</sup>し<sup>(小)</sup>や<sup>(小)</sup>う<sup>(小)</sup>け<sup>(小)</sup>・<sup>(小)</sup>ほう<sup>(小)</sup>ち<sup>(小)</sup>や<sup>(小)</sup>う<sup>(小)</sup>・<sup>(小)</sup>た<sup>(小)</sup>き<sup>(小)</sup>木<sup>(木)</sup>・<sup>(木)</sup>す<sup>(木)</sup>み<sup>(木)</sup>、<sup>(木)</sup>其<sup>(木)</sup>日<sup>(木)</sup>四<sup>(木)</sup>ノ<sup>(木)</sup>文<sup>(木)</sup>ほ<sup>(木)</sup>と<sup>(木)</sup>入<sup>(木)</sup>申候、<sup>(木)</sup>わ<sup>(木)</sup>も<sup>(木)</sup>し<sup>(木)</sup>手<sup>(木)</sup>づ<sup>(木)</sup>か<sup>(木)</sup>ら<sup>(木)</sup>た<sup>(木)</sup>き<sup>(木)</sup>申候て由太郎<sup>(由)</sup>ニ<sup>(由)</sup>も<sup>(由)</sup>め<sup>(由)</sup>し<sup>(由)</sup>共<sup>(由)</sup>た<sup>(由)</sup>かせ<sup>(由)</sup>申候、扱京<sup>(京)</sup>とは<sup>(京)</sup>先<sup>(京)</sup>年<sup>(京)</sup>と<sup>(京)</sup>ハ<sup>(京)</sup>ち<sup>(京)</sup>が<sup>(京)</sup>い<sup>(京)</sup>さ<sup>(京)</sup>び<sup>(京)</sup>敷、<sup>(先)</sup>ほん<sup>(先)</sup>と<sup>(先)</sup>丁<sup>(先)</sup>ハ<sup>(先)</sup>皆<sup>(先)</sup>ひ<sup>(先)</sup>け<sup>(先)</sup>申候てざ<sup>(在)</sup>い<sup>(在)</sup>所<sup>(在)</sup>同<sup>(在)</sup>様<sup>(在)</sup>ニ<sup>(在)</sup>なり<sup>(在)</sup>申候、東山<sup>(東)</sup>き<sup>(東)</sup>お<sup>(東)</sup>ん<sup>(東)</sup>し<sup>(東)</sup>ん<sup>(東)</sup>ち<sup>(東)</sup>五<sup>(東)</sup>條<sup>(東)</sup>は<sup>(東)</sup>し、<sup>(其)</sup>其<sup>(其)</sup>外<sup>(其)</sup>あ<sup>(其)</sup>そ<sup>(其)</sup>び<sup>(其)</sup>所<sup>(其)</sup>一<sup>(其)</sup>間<sup>(其)</sup>も<sup>(其)</sup>な<sup>(其)</sup>く、<sup>(し)</sup>しま<sup>(し)</sup>ば<sup>(し)</sup>ら<sup>(し)</sup>ハ<sup>(し)</sup>い<sup>(し)</sup>か、<sup>(候)</sup>候哉、<sup>(候)</sup>これ<sup>(候)</sup>も<sup>(候)</sup>今<sup>(候)</sup>ハ<sup>(候)</sup>ふ<sup>(候)</sup>け<sup>(候)</sup>い<sup>(候)</sup>き<sup>(候)</sup>のよし、<sup>(扱)</sup>扱<sup>(扱)</sup>又<sup>(扱)</sup>や<sup>(扱)</sup>な<sup>(扱)</sup>だ<sup>(扱)</sup>え<sup>(扱)</sup>す<sup>(扱)</sup>ね<sup>(扱)</sup>ぶ<sup>(扱)</sup>り<sup>(扱)</sup>ニ<sup>(扱)</sup>た<sup>(扱)</sup>つ<sup>(扱)</sup>ね<sup>(扱)</sup>申候所、夫婦共<sup>(夫)</sup>大<sup>(夫)</sup>よ<sup>(夫)</sup>ろ<sup>(夫)</sup>こ<sup>(夫)</sup>び<sup>(夫)</sup>ニ<sup>(夫)</sup>て<sup>(夫)</sup>さ<sup>(夫)</sup>つ<sup>(夫)</sup>そ<sup>(夫)</sup>く<sup>(夫)</sup>此<sup>(此)</sup>方<sup>(此)</sup>え<sup>(此)</sup>む<sup>(此)</sup>け<sup>(此)</sup>参<sup>(参)</sup>る<sup>(参)</sup>や<sup>(参)</sup>う<sup>(参)</sup>被<sup>(被)</sup>申候、<sup>(と)</sup>と<sup>(と)</sup>り<sup>(と)</sup>あ<sup>(と)</sup>へ<sup>(と)</sup>ず<sup>(と)</sup>さ<sup>(と)</sup>か<sup>(と)</sup>つ<sup>(と)</sup>き<sup>(と)</sup>よ<sup>(と)</sup>な<sup>(と)</sup>ニ<sup>(と)</sup>よ<sup>(と)</sup>と<sup>(と)</sup>大<sup>(大)</sup>ニ<sup>(大)</sup>と<sup>(大)</sup>り<sup>(大)</sup>も<sup>(大)</sup>ち<sup>(大)</sup>、<sup>(ま)</sup>ま<sup>(ま)</sup>づ<sup>(ま)</sup>う<sup>(ま)</sup>ず<sup>(ま)</sup>茶<sup>(茶)</sup>ニ<sup>(茶)</sup>や<sup>(茶)</sup>う<sup>(茶)</sup>か<sup>(茶)</sup>ん<sup>(茶)</sup>共<sup>(共)</sup>等<sup>(等)</sup>申候、<sup>(む)</sup>む<sup>(む)</sup>す<sup>(む)</sup>こ<sup>(む)</sup>の<sup>(む)</sup>せ<sup>(む)</sup>い<sup>(む)</sup>じ<sup>(む)</sup>ん<sup>(む)</sup>ニ<sup>(む)</sup>て<sup>(む)</sup>あ<sup>(む)</sup>い<sup>(む)</sup>さ<sup>(む)</sup>つ<sup>(む)</sup>ニ<sup>(む)</sup>出<sup>(出)</sup>られ<sup>(出)</sup>申候、<sup>(日)</sup>よく<sup>(日)</sup>日<sup>(日)</sup>ハ<sup>(日)</sup>門<sup>(門)</sup>人<sup>(門)</sup>え<sup>(門)</sup>四<sup>(四)</sup>だ<sup>(四)</sup>ん<sup>(四)</sup>ふ<sup>(四)</sup>た<sup>(四)</sup>もの<sup>(物)</sup>ニ<sup>(物)</sup>い<sup>(物)</sup>ろ<sup>(物)</sup>〳〵に<sup>(物)</sup>し<sup>(物)</sup>め<sup>(物)</sup>又<sup>(物)</sup>ハ<sup>(物)</sup>つ<sup>(物)</sup>け<sup>(物)</sup>もの<sup>(共)</sup>共<sup>(共)</sup>桶<sup>(桶)</sup>ニ<sup>(桶)</sup>入<sup>(桶)</sup>お<sup>(桶)</sup>く<sup>(桶)</sup>ら<sup>(桶)</sup>れ<sup>(桶)</sup>申候、<sup>(何)</sup>何<sup>(何)</sup>そ<sup>(何)</sup>〳〵ふ<sup>(何)</sup>し<sup>(何)</sup>ゆ<sup>(何)</sup>う<sup>(何)</sup>の<sup>(何)</sup>品<sup>(品)</sup>申<sup>(品)</sup>遣<sup>(品)</sup>し<sup>(品)</sup>く<sup>(品)</sup>れ<sup>(品)</sup>よ<sup>(品)</sup>と<sup>(品)</sup>大<sup>(大)</sup>ニ<sup>(大)</sup>し<sup>(大)</sup>ん<sup>(大)</sup>せ<sup>(大)</sup>つ<sup>(大)</sup>ニ<sup>(大)</sup>成<sup>(成)</sup>申候、<sup>(小)</sup>其<sup>(小)</sup>上<sup>(小)</sup>、<sup>(小)</sup>小<sup>(小)</sup>遣<sup>(小)</sup>ろ<sup>(小)</sup>や<sup>(小)</sup>う<sup>(小)</sup>いつ<sup>(小)</sup>なん<sup>(小)</sup>時<sup>(小)</sup>も<sup>(小)</sup>申<sup>(小)</sup>越<sup>(小)</sup>候<sup>(小)</sup>様、<sup>(何)</sup>何<sup>(何)</sup>事<sup>(何)</sup>も<sup>(何)</sup>多<sup>(多)</sup>ん<sup>(多)</sup>り<sup>(多)</sup>よ<sup>(多)</sup>なく<sup>(多)</sup>申<sup>(多)</sup>き<sup>(多)</sup>け<sup>(多)</sup>よ<sup>(多)</sup>との<sup>(事)</sup>事<sup>(事)</sup>ニ<sup>(事)</sup>て<sup>(事)</sup>大<sup>(大)</sup>ニ<sup>(大)</sup>心<sup>(心)</sup>つ<sup>(心)</sup>よ<sup>(心)</sup>く<sup>(心)</sup>御<sup>(御)</sup>座<sup>(座)</sup>候、<sup>(わ)</sup>わ<sup>(わ)</sup>も<sup>(わ)</sup>し<sup>(わ)</sup>も<sup>(わ)</sup>は<sup>(わ)</sup>やく<sup>(わ)</sup>荷<sup>(荷)</sup>物<sup>(物)</sup>共<sup>(共)</sup>上<sup>(上)</sup>り<sup>(候)</sup>候<sup>(候)</sup>ハ<sup>(候)</sup>、<sup>(江)</sup>そ<sup>(江)</sup>れ<sup>(江)</sup>〳〵仕<sup>(仕)</sup>、<sup>(江)</sup>江<sup>(江)</sup>戸<sup>(戸)</sup>の<sup>(方)</sup>方<sup>(方)</sup>え<sup>(参)</sup>参<sup>(参)</sup>り、<sup>(早)</sup>早<sup>(早)</sup>々<sup>(早)</sup>又<sup>(早)</sup>〳〵京<sup>(京)</sup>ニ<sup>(京)</sup>出<sup>(出)</sup>、<sup>(大)</sup>大<sup>(大)</sup>坂<sup>(坂)</sup>え<sup>(出)</sup>出<sup>(出)</sup>、<sup>(中)</sup>中<sup>(中)</sup>国<sup>(国)</sup>五<sup>(五)</sup>四<sup>(四)</sup>国<sup>(国)</sup>高<sup>(高)</sup>松<sup>(松)</sup>ニ<sup>(参)</sup>参<sup>(参)</sup>り、<sup>(は)</sup>は<sup>(は)</sup>やく<sup>(は)</sup>か<sup>(は)</sup>へ<sup>(り)</sup>申<sup>(度)</sup>度<sup>(度)</sup>、<sup>(た)</sup>た<sup>(た)</sup>び<sup>(た)</sup>ニ<sup>(た)</sup>て<sup>(た)</sup>び<sup>(た)</sup>人<sup>(人)</sup>も<sup>(何)</sup>何<sup>(何)</sup>も<sup>(不)</sup>入<sup>(不)</sup>申<sup>(候)</sup>、<sup>(早)</sup>は<sup>(早)</sup>やく<sup>(早)</sup>〳〵か<sup>(へ)</sup>り<sup>(度)</sup>度<sup>(度)</sup>お<sup>(も)</sup>い<sup>(申)</sup>候、<sup>(大)</sup>大<sup>(大)</sup>坂<sup>(坂)</sup>ニ<sup>(て)</sup>日<sup>(日)</sup>々<sup>(あ)</sup>あ<sup>(ん)</sup>は<sup>(い)</sup>あ<sup>(し)</sup>く<sup>(し)</sup>、<sup>(芝)</sup>し<sup>(芝)</sup>は<sup>(い)</sup>も<sup>(づ)</sup>つ<sup>(う)</sup>な<sup>(が)</sup>ら<sup>(見)</sup>申<sup>(候)</sup>て<sup>(京)</sup>京<sup>(上)</sup>上<sup>(り)</sup>申<sup>(候)</sup>所、<sup>(伏)</sup>ふ<sup>(し)</sup>み<sup>(み)</sup>ち<sup>(お)</sup>い<sup>(く)</sup>づ<sup>(つ)</sup>う<sup>(も)</sup>や<sup>(み)</sup>申<sup>(候)</sup>、<sup>(王)</sup>大<sup>(王)</sup>坂<sup>(の)</sup>と<sup>(ち)</sup>ニ<sup>(あ)</sup>い<sup>(不)</sup>申<sup>(と)</sup>お<sup>(ほ)</sup>へ<sup>(申)</sup>候、<sup>(扱)</sup>扱<sup>(扱)</sup>大<sup>(扱)</sup>坂<sup>(も)</sup>京<sup>(も)</sup>し<sup>(し)</sup>き<sup>(何)</sup>物<sup>(高)</sup>高<sup>(お)</sup>ぢ<sup>(き)</sup>ニ<sup>(て)</sup>め<sup>(わ)</sup>め<sup>(わ)</sup>の<sup>(は)</sup>一<sup>(斤)</sup>代<sup>(三)</sup>百<sup>(文)</sup>ニ<sup>(て)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(や)</sup>や<sup>(は)</sup>り<sup>(し)</sup>め<sup>(り)</sup>い<sup>(な)</sup>さ<sup>(め)</sup>の<sup>(と)</sup>ふ<sup>(り)</sup>ほ<sup>(ね)</sup>も<sup>(ふ)</sup>と<sup>(く)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(ね)</sup>人<sup>(ね)</sup>も<sup>(し)</sup>百<sup>(文)</sup>ニ<sup>(五)</sup>百<sup>(文)</sup>六<sup>(本)</sup>ニ<sup>(て)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(其)</sup>其<sup>(方)</sup>様<sup>(の)</sup>御<sup>(く)</sup>ら<sup>(し)</sup>京<sup>(ニ)</sup>て<sup>(ハ)</sup>日<sup>(日)</sup>〳〵〳〵〳〵〳〵申<sup>(候)</sup>、<sup>(勝)</sup>や<sup>(き)</sup>も<sup>(ち)</sup>其<sup>(地)</sup>地<sup>(ニ)</sup>て<sup>(二)</sup>切<sup>(一)</sup>文<sup>(一)</sup>切<sup>(一)</sup>文<sup>(一)</sup>、<sup>(此)</sup>此<sup>(地)</sup>地<sup>(ニ)</sup>て<sup>(ハ)</sup>七<sup>(文)</sup>八<sup>(文)</sup>いたし<sup>(申)</sup>候、<sup>(八)</sup>八<sup>(文)</sup>の<sup>(い)</sup>い<sup>(も)</sup>、<sup>(さ)</sup>さ<sup>(し)</sup>わ<sup>(た)</sup>し<sup>(貳)</sup>寸<sup>(あ)</sup>つ<sup>(さ)</sup>三<sup>(分)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(其)</sup>其<sup>(よ)</sup>ハ<sup>(み)</sup>な<sup>(た)</sup>か<sup>(く)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(む)</sup>む<sup>(め)</sup>ぼ<sup>(し)</sup>一<sup>(つ)</sup>五<sup>(文)</sup>ニ<sup>(て)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(扱)</sup>扱<sup>(扱)</sup>大<sup>(扱)</sup>坂<sup>(ニ)</sup>て<sup>(四)</sup>文<sup>(錢)</sup>い<sup>(つ)</sup>か<sup>(う)</sup>す<sup>(く)</sup>なく<sup>(御)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(百)</sup>百<sup>(文)</sup>錢<sup>(お)</sup>も<sup>(と)</sup>め<sup>(候)</sup>へ<sup>(ハ)</sup>二<sup>(朱)</sup>朱<sup>(ニ)</sup>て<sup>(六)</sup>十<sup>(文)</sup>と<sup>(ら</sup>れ<sup>申)</sup>候、<sup>(四)</sup>四<sup>(文)</sup>錢<sup>(も)</sup>同<sup>(様)</sup>ニ<sup>(御)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(や)</sup>や<sup>(う)</sup>な<sup>(く)</sup>二<sup>(朱)</sup>朱<sup>(ガ)</sup>八<sup>(百)</sup>文<sup>(ニ)</sup>ナ<sup>(り)</sup>申<sup>(候)</sup>、<sup>(以)</sup>以<sup>(来)</sup>上<sup>(京)</sup>の<sup>(人)</sup>人<sup>(舟)</sup>よ<sup>(り)</sup>上<sup>(り)</sup>候<sup>(方)</sup>、<sup>(長)</sup>長<sup>(崎)</sup>ニ<sup>(て)</sup>金<sup>(ラ)</sup>四<sup>(文)</sup>錢<sup>(ニ)</sup>して<sup>(上)</sup>上<sup>(り)</sup>候<sup>(へ)</sup>ハ<sup>、</sup>き<sup>(つ)</sup>と<sup>(し)</sup>た<sup>(り)</sup>ニ<sup>(な)</sup>り<sup>(申)</sup>候、<sup>(ば)</sup>ば<sup>(ん)</sup>金<sup>(壱)</sup>兩<sup>(二)</sup>朱<sup>(ニ)</sup>か<sup>(へ)</sup>申<sup>(候)</sup>へ<sup>(ハ)</sup>壱<sup>(兩)</sup>兩<sup>(ニ)</sup>付<sup>(銀)</sup>銀<sup>(三)</sup>匁<sup>(外)</sup>ニ<sup>(く)</sup>れ<sup>(申)</sup>候、<sup>(ば)</sup>ば<sup>(ん)</sup>金<sup>(二)</sup>匁<sup>(三)</sup>いた<sup>(た)</sup>て<sup>(ふ)</sup>つ<sup>(て)</sup>い<sup>(ニ)</sup>御<sup>(座)</sup>候、<sup>(わ)</sup>わ<sup>(も)</sup>し<sup>(荷)</sup>物<sup>(ニ)</sup>四<sup>(文)</sup>錢<sup>(入)</sup>候<sup>(事)</sup>は<sup>(大)</sup>大<sup>(坂)</sup>の<sup>(人)</sup>人<sup>(か)</sup>ん<sup>(し)</sup>ん<sup>(い)</sup>いた<sup>(し)</sup>申<sup>(候)</sup>、<sup>(長)</sup>長<sup>(崎)</sup>ニ<sup>(て)</sup>ハ<sup>(わ)</sup>ら<sup>(わ)</sup>れ<sup>(申)</sup>候、<sup>(う)</sup>う<sup>(ん)</sup>ち<sup>(ん)</sup>か<sup>(け)</sup>候<sup>(て)</sup>も<sup>(金)</sup>金<sup>(お)</sup>錢<sup>(ニ)</sup>して<sup>(上)</sup>上<sup>(り)</sup>候<sup>(事)</sup>ハ<sup>(大)</sup>大<sup>(利)</sup>と<sup>(く)</sup>ニ<sup>(な)</sup>り<sup>(候)</sup>よし、<sup>(十)</sup>十<sup>(兩)</sup>ニ<sup>(て)</sup>壱<sup>(兩)</sup>何<sup>(が)</sup>し<sup>(と)</sup>申<sup>(と)</sup>く<sup>(用)</sup>ニ<sup>(か)</sup>、<sup>(リ)</sup>リ<sup>(物)</sup>

してなるよしニ御座候、扱いまだ本寺ニも参り不申、いつれおい／＼てんきしまり候ハ、所見物ニ出申度、木や町のかし座敷もあてなけれハつまらぬものにて御座候、先はまつ共して一品なり共とめ□□申度存い申候、いつれあとびんにて万々申上度、まつハあら／＼目出度、かしこ、

三月廿七日

はばかり様ながら皆々様へよろしく御申被下かし、なかさきとよろしき所ハ外ニ御座なく、けつして／＼十リ外ニ御あそびの所おもひ被成間敷候、

少蘭君

魚光

無事

十六、木下勇之助宛

京ニ而御註文之品相頼可申、註文書付京之取残し申候故、大坂ニ而は不其儀

大失念仕候、

先以御安全奉賀候、荷物延着ニ付、一先三月廿三日上京、残花見物ニ上り候得共、皆葉計ニ而残念ニ御座候、其上、京大坂之用向出来不申故、ウツラ／＼と待申候處、漸四月四日荷物大坂へ着仕候間、早々中藤と為知参り申候、其夜大坂之下、荷物受取、品物共ハサヌキ今是え渡し、帰路同人宅へ参り候ヤクソク仕候、扱上方辺気候不順、雨打ツ、キ困入申候、何れ小拙も気候見合、東行仕度、先は荷物受取安心仕候趣、浜武様御下り故一寸御為知、乍憚皆々様へ宜敷、御次手之節拙寺へも御申聞奉希候、先は早々頓首、

四月八日

木下勇之助様

平安無事

春徳寺

四月八日大坂より

四月卅一日浜武と届キ

十七、木下勇之助宛

時下寒冷之節ニ御座候得共、先以皆々様御揃被成御安全奉賀候、随而野拙義も不

計江戸表え長々敷滞留ニ相成、万事大不如意不得止事、穎川一同京迄着仕候、江戸表九月四日立出、十月朔日伊勢参宮、同七日京着仕候而四月御出之尊書拜見仕候、安心仕候、先野拙も無別條、乍憚御休意可被下、所々ニ而尊敬ニナリ汗顔之至ニ御座候、京大坂江戸共画風落し不申、皆々閉口サセ申候、実ニ鳥ナキ里ト申事ニ而ヲカシ〇是も南都一見而大坂之下り、早々中国四国仕舞、早々帰国仕万話申上度、未京地買物扱仕舞不申、其上着物ウスク相仕立方衣屋へ頼ミ申候、別而上方サムク御座候、九月も木曾路雪深く、伊勢路迄黄葉雪景共見事ニ而御座候、今ニ高山雪消之不申、先は京着仕迄ニ而余事略之、早々頓首、

十月十日

二白、逸雲様、おみさ様、おくら様、米屋おみつ様、其外人々ニも宜敷御伝声奉希候、京迄参り候得は早々飛出帰心シキリニ候得共、又ト申事難事故、サムクハ候得共、南都一見仕度、すくニ大坂へ出、ハン州路中国四国アラマシ仕舞、早々帰国万話申上度所ニ而大ニトドメラレ、定而大坂も連中ト、メ可申、毎時貫名迄便

キ、ニ参り候よし、伊勢ニ而も大ニト、メラレ申候、

尾州覚正寺へ帰路ニも逢申候、随分無事ニ而伝言共御座候、

木下勇之助様

平安無事用書

十月十日夜認

平安無事用書

十月十日夜認

十八、木下少蘭宛

何事も／＼かへりまして山／＼ものかたり可申たのしみ申候、

便ニまかせ一筆しめし上参せ候、扱／＼御なつかしくおもひ上候、日々もひとあしものはやくかへりいろ／＼御ものかたり共いたし度存上候、ゑどたいりゆうもことの外長くなり、あやなく二にてんきふじゆんにてあめおふく、日光道中その外皆々みちたへ申候て、やうやく九月四日ニゑど立仕候、ゑどニ参り候てもかんじんの〇印ふそくにて、ゑ川藤三郎との二十五両かりうけいろもとめもの其外百三十日の入用いたし、それにてかへりみちのろ銀なくなり申候ゆへ、日光あしか、伊せ迄の日日、人足はたご共一所ニみちつれニなり、はらい方たのみ、やうやく京迄つれ



られ申候、京二のこし置候ろ銀とてもたり不申ゆへ、いつれやなだか又ハ大坂申すじや共ニそうだんいたし、又川え半高なり共かへし可申、わもしハせつかく山とめぐりの事存立申候ゆへ、どふなり共してならのみやこのふるあと見物いたし、それハ大坂え参り、中国道中かごもうちつり、つゑ一本にてに物ハ大坂えたのミ下し、それよりさぬきわだはまこんぜの所ニゆき、銀子とり、かへりみちのろ銀ニなして下り申度、扱もく此せつハ長さき出る時道中大坂とふかいどふ・しやうののしく、江戸までいくへんともなくいたみ申候、その上水あたりにてからだ申ふき出ものいたし申候、今ハ少々よろしく、かへりニみやわせとふじ共いたし度、扱わもし日かつねがいつぎ共いか、ニなり候やら、これもきニか、リ申候、六月限の所あまリニゑんねんニなり、かふぎのとかめもいかか、しかし、わもしもいんきよいたし候かくごにて御座候ゆへ、それ迄の事と存申候、扱もくなんのいんくわにて此せつのためハいたし候事やらとかふくわいたし申候、いつれくはやくかへり山々ものかたり共いたし度、やと本ゑも此おもむき御申き被下かし、わもしるす中の所いか、とばかりあんじ申候、下人共ハ今二いとめてい申候哉、ばかどのわもしがおり不申ゆへ何分ニ候哉、よくく御いけん下されかし、逸雲様、秋塘様其外ニよろしく、いそぎあらく目出度、かしこ、

十月六日京着

寺町三条下ル丹波屋源七宅ニ而夜認

十月初日伊勢参宮仕、橋村肥前太夫え一宿仕候、太夫殊外とりもち、其外の太夫東シ一角ト申太夫内儀佩芳ト申人しきりニとめられ、其日わもしニ入門、金百疋つ、み、けつかふのくわし共おくられ申候而、たつて四五日とめられ候得共、何分頼川いそぎ故、伊勢ハ一宿ニ而すぐニ其夜津迄引取申候、津の城内ニ而みんてふの王建章ト申人の山水十幅つゝ見物いたし申候、其外いろくみ申候て、それとせきニ夜九つ時二つき、とまり申候、そのまへニ伊勢ニ而増田君え金十両かり申候て、ソレヲ頼川ニ遣し申候、同人サツパリ金ナシ、其上古市ニテヲドリ共見物いたし、金モナキ故世話たのまれ申候、其上京着ニナリ候得共、わもしは少し京二のこし置申候へ共、頼川サツハリ金ナシニ而又々三井ニ申入、金五十両かりうけ、是ト申もしせき君の書状被下候故ト大ニく忝ヲモイ申候、わもしひとりナレバソレモカルニ不

校刊「鉄翁書簡・附鉄翁宛書簡」

及候得共、江戸ニ而世話ニナリ候故、大ニ心配いたし申候、金子ニナリ候てハナカくく柳田もさつはりたのミニナリ不申、とふしたらよかろうと存あんじ申候所、江戸え参りかけ、人つでにしせき君もらひ候書状ヲバ人ニこと付、三井ニ遣し置、わもしハさつはり参り不申、とても金カルツモリナキ故、面だんもいたし不申所、此節ニナリ、大きくそれがためニナリ、しせき君のおんニなり申候、扱京ニ着仕候所、ぬきな其外文人たち大ニくよろこびて、ぜびく今年ハ京ニくらし、来春の花迄としきりニとめられ候へ共、はや、なら見物もそこくニして、はやかへり度しきりニおもひ、みなくニなごりもおしく候へ共、此中ころ十五日すぎニハならへむけ、それハ大坂え下り度存申候、御かけ様にていつれニ参り候ても人くこうやまハれ、大ニとりもちニあひ申候、かへりニハしもつゝいさぬきニ渡り高松、それハわだはま金うけとり、すくニいそぎかへり可申、大坂にてとめられ可申、よいかけんニしてかへり可申候、いつれ十一月すへ迄ハか、り可申、何とぞくやと本ものへもしんばふしてまち候やう御申被下かし、又かうぎの所よろしくこしらへくれ候やう御申被下かし、本山の人くたつてとめられ大ニくこのりおふくおもわれ候事みやうがしごくニ御座候、

少蘭君え

鉄翁合掌

平安無事用

十月十日夜認

十九、木下少蘭宛か

しかししせき君の御かけにて何のくもなく三井ハ金もかりうけ申候故あんしん仕候、

四月出の御状、十月七日江戸ハ京え着して衣屋迄参りおり候状拜見仕候、先々御無事のよしうれしく、寺の方もかなりニるすいたしくれ候様安心仕候、乍憚宜敷仰聞被下かし、神事の節ハおもひやり申候、由太郎事も無事ニいたし大分此節ハつかへおり申候ゆへ、きものもふかもめんて、はおりもたのミつくり遣申候つもリニ御座候、三、四両由太郎ニもか、り申候、正金ハ三両二分今日迄遣し申候、小遣ハ外なり、此節ハはからす長たいりゆう、おもしろく見物ある所の京ニハすく

三一

なく、ぞくなる<sup>(江戶)</sup>ど二ながくむだ二月日おす<sup>(を)</sup>ごし金遣ひ候事、かへす<sup>(残)</sup>さんねん<sup>(念)</sup>の至二御座候、京の方にて大分みそこない候事おふく、女院様のそふりもみづ、すみのころも見ず、しまばらねりものみす、きおんみづ、かれこれそんおふく、とくすくなく、じせつ<sup>(時節)</sup>あしくおもひ立候事ことくやくしく、いまだ京のみちも今日迄見不申、ぞくな金のさいかくばかり、

(渡辺註・本紙ハ未完トオボシク宛名見エザレドモ、少蘭宛ノモノナラン、日付モナシ)

二十、木下秋塘(勇之助宛)

時下寒氣之節二御座候得共、先以貴家御家内様皆々御安全奉賀候、随<sup>(テ)</sup>而野拙儀も無別条、漸十月七日出京、廿六日南都之向出立、廿九日下坂仕候、大坂二而画段々と頼候故、無余儀廿日頃迄滞留仕候而高松之方之向ケ参り度、毎度京ニも大坂ニも山田勝次殿も書状到来仕、深情之事故是非一寸ナリ共渡海仕存念ニ御座候、何れ野拙帰国は十二月中過ト存申候故、乍憚寺<sup>(三浦橋門)</sup>之も其趣仰聞奉頼候、江戸京大坂ニ而も其外伊勢路共大分高名ヲ振イ申候、逸<sup>(木下秋塘)</sup>雲先生、秋塘先生、梧<sup>(三浦橋門)</sup>門先生崎陽ニアル事共自<sup>(後)</sup>マン仕、梧門先生は唐人ト心得、江戸ニ而も大坂ニ而も道具屋參、鑑定頼来申候、江戸ニ而唐人寄合幅ト申物見申候、逸雲、秋塘、梧門、鉄翁半切物ニ而珍藏之幅のよし持来申候、御笑ひ、何れ帰国拜眉万説如山、大分珍事共候得共不盡筆紙、大坂ニ而重春見舞、是非自分宅之滞留可仕由す、め候得共、少々勝手も不弁二候故参り不申、芝居共見物仕候節尋申度、今夕長崎之便御座候よし宿屋も申出候故、一寸便申上度、先者<sup>(後)</sup>早々頓首、

春徳寺

鉄翁合掌

十一月六日

木下秋塘様

帰<sup>(虫)</sup>□は大坂も陸仕候筈之所、寒風烈御座候故、大坂も舟二仕、サヌキ<sup>(鯉)</sup>之心さし申候、京滞留中、貫名夫婦<sup>(虫)</sup>□柳田夫婦大ニ深情ニ而取持、其上柳田子息長之助殊外ナレ候而、貴家<sup>(テ)</sup>之助殿同様少面躰も似申候故、シキリニ之助殿ナツカ敷思申候、定御

子達も皆々フトリ被成候ト存、心当の手遊共求メ持帰の上よろこばせたのし<sup>(マ)</sup>ミ申候、何共であろふか、

○江戸ニ而源太郎様ニ逢申候而物話共仕置申候、是も今漸時サバケヌ事ニ候故、アトも参り可申候、貴家<sup>(虫)</sup>之ムケ書状共コトツカリ申候、

○浜武<sup>(三浦橋門)</sup>之も御次手ニ宜敷御申被下かし、

○梧<sup>(春老)</sup>門、老谷、止渴、<sup>(虫)</sup>園、<sup>(虫)</sup>圃、清且、梅<sup>(松浦兼造)</sup>圃、芝仙各々先生之も乍憚別書不仕候故、御出之節宜敷一声奉希候、又頓首、

○龜山米屋池政五郎<sup>(テ)</sup>へも宜敷御一声奉希候、大坂北ハマ<sup>(浜)</sup>之木下向ケニ而追々荷物共之方頼置申候故、乍憚拙寺之御送り奉頼候、

帰国迄御藏之御預り被下候<sup>(虫)</sup>てもよろし、

二白、御両所、拙寺之到来書状、京ニ而拜見仕候、扱御註文之品々段々間違<sup>(ナラン)</sup>甚恐入申候、衣屋之も申キケ、大ニトリヒシキ申候得共、今更無仕方、帰国候<sup>(テ)</sup>而も此事案し申候、右者御註文之品申渡、早々梅雨ニ成申候<sup>(テ)</sup>而はふしの山も見る事難成と存、其儘京出立、下し方之事共申付、念入不申事多罪此事ニ御座候、何共申分ケ無

是次第、おかう殿ニも無面目事ニ而其御ワビニ少々持帰り御品も御座候故、其罪<sup>(補)</sup>ヲギナイ可仕、其外向々の御註文共ニおふく候故、何分の事かと存、大ニ案し申候、

不案内之拙、段々仕落之事共御座候事と存申候、乍去打ヤリハ不仕、大ニ念入レカ、

リキリ、ナルタケ世話仕候得共、右の仕<sup>(虫)</sup>因<sup>(ナラン)</sup>た、扱<sup>(整)</sup>氣之毒千万之事ニ而御座候、

嘸々下し物間違<sup>(悪)</sup>而は御気分もあしくさつし申候、たのミカイナキ事と嘸々<sup>(整)</sup>此方ニ而も大キニ恐入申上、大キニ氣の毒ニ奉存候、何分御海容被下かし、乍憚宜敷御ト

リナシ奉希候、早々、

二十一、木下秋塘(勇之助)宛

二月廿三日七ツ時下ノ関権七天神丸阿弥陀寺<sup>(船)</sup>也ノリ込、二十四日上セキ、廿五日<sup>(家)</sup>カムロ、廿六日同所、廿七日同所<sup>(上)</sup>ナシ、廿八日カラト、廿九日アイノシマ、三月一日大雪室ニツク、二日兵庫、八ツ時着岸、三日午後大坂之着、中筋ヤ家内病人アル故、別ニ下シヤウ町大半ト云宿之止宿、此日風邪甚敷、九死一生医ヲ頼ミ腹<sup>(マ)</sup>薬仕候得共不能起立、但島天民<sup>(虫)</sup>□ニ見舞、四日天子泉湧寺御幸、是ニモ病中故残念、五日

銅座役所中山利十郎殿 俵物役所腹巻徳太郎殿 六日七日八日九日病中駕籠ニ而俵物役所之

為(知カ)□參り、十月十一日十二日此日も少ツ、快方ニ相成、十三日初而起立、先天(瀧)マ

天神之參詣仕候、十四日今日迄アケ荷一向便無之、但上坂仕、病氣ニ打臥込ニ而何事も仕事無之、上京も難成、荷物於長崎ツミ込、何分共ニ候哉、日日相マチ申、扱

大坂辺当年ハ不順ニ而時候不定由、乍去先今日共より次第第二快方ニ相成候間、御安意可被下候、荷物ハ上り不申、日日待申候事もムダ事故、一先上京、花共見物仕、

又々大坂之下り註文品々申付、又々上り、関東ニも參り可申存念ニ御座候、松島見物も止メ、早々見物仕舞次第帰国可仕存念ニ相成申候、右之趣祖鶴ニ御申聞被下度

御頼申上候、先は余事後便申上度、早々頓首、

丙寅ナラン  
□□三月十四日

鉄翁合掌

秋塘先生

但島天民大ニ世話仕、時々送物共預り申候、其所天民所々之フレ候哉、風流人共見舞ニ參り、画共大ニ懇望被申候、今は病中ナカララン竹共認送り申候、右天民老被

申候、今漸時滞留候ハ、百金は世話申上候ト申事ニ候得共、金取候覚悟ニては□□□□(虫食)

俗ニも相成不申而は難叶、先ソコ〳〵ニ可仕候、扱日日も故郷不思日トテハ夢中モ無之、随分御自愛專一祈申候、乍憚皆々様之別書差上申、宜敷御申被下かし、且

連中ニも取(とりわけ)分三(三浦橋門)浦、游(遊龍梅泉)龍、穎川、桐山(桐山桐園)、山、沢井、北島、別而逸雲様之御次手ニ宜敷御伝声奉希候、

下ノ関ハ駕籠共長崎之向ケ返し申候間定而着可仕候、帰路も只杖一本と身カルニ可仕存念ニ御座候故也、

(以上、木下家文書)

二十二、木下逸雲宛

当日は目出度奉賀候、野拙儀日々快方ニ相成大慶仕候、然は今日ひるめしニ外方も到来之新蕎麦差上度御入之程如何、先者拜眉迄、早々頓首、

十月亥之日

尚々沢山ニ者無御座候得共、□ヨ(イカ)御同伴被下成候ても不苦候間御申被付かし、

校刊「鉄翁書簡・附鉄翁宛書簡」

逸雲先生

玉案下

二十三、甲原玄易・玄寿宛

復啓

八月十二日出之華翰、同二十五日落手、忝拜読仕候、時下秋冷次第相募候所、弥々御堅勝被成御座奉賀候、随而当方山中皆々無別条罷在申候間、乍憚御安意可被下候、誠ニ毎々種々御惠投被下、御懇情之段不淺受納仕候、万事ハ沢助殿御帰郷之上御聞可被下候、先ハ御礼旁々如此御座候、恐々謹言、

春徳

鉄翁和南

八月二十七日夜子半刻

甲原玄易様

甲原玄寿様

各々座下

二白、天下大器為天下御自愛專要奉黙祈候、乍輕少新渡染付小猪口カ唐館ニテ得、江芸閣ハ線香少并小草カンザシ六拜呈仕候間、御叱留奉希候、

○老母知常随分無事ニ罷在申候、是ももくれ〳〵宜敷申上候様申出候(渡辺註・知常ノ没シタルハ文政十二己丑年七月十七日ナリ)

○何卒〳〵近年中復々御再遊之程奉待候、

○自是は始終御無沙汰打過候段、真平御免可被下候、

○乍憚御親父様之別書呈上仕候間、宜敷被仰上被成度奉希候、

○矢野敬司様御安泰ニ御座候哉、是又宜敷御伝声可被下奉希候、河野元礼様ニも同様ニ御座候、

○沢助様此節遠方之所御来駕故、是非〳〵九日迄御留申上候得共、何分御聞入無之故、来二日迄御滞留被成候様申上候所、是も是非〳〵明二十八日御発足と御申被成候間、十二モカモ間ニ合不申、乍残念拜別仕候、小子カ罪ニテハ無御座候、

三三三

○去秋先住七回忌ニ相当、四来雲水三百々、大会首尾よく円成仕候、是又御為知申上候（渡辺註・先住玄翁玄老ハ文政二己卯年八月十二日示寂、七回忌ハ文政八乙酉年ニ当ル）  
○御為笑拙画仕さし上度候得共、間ニ合不申、後便之節と存申候、其砌よりハ少々宜敷相なり申候とまつく申上候、

○先年御来臨之節は段々蒙御教、今ニモ亡脚不仕事ニ御座候、千万難有奉存候、御老母様之事、嘸々御愁腸、是も御回向可申上候、無筆同様之小子万々不具、此段御海容奉希候、

二十四、錦水宛

八月晦日出華翰、閏八月十七日無滞落手仕、忝拜誦、

秋冷之節ニ御座候處、御家内皆々様弥御安榮之由奉賀候、扱貴君此地御出立之砌は御病中ニ候故、日々如何トアンシ居申候處、無畏御帰国被成、無程御快ニ而、又々頃日ハ御不快之由、氣之毒千萬奉存候、近々冷氣相増候故、随分く御保養專一奉存候、且又此度ハ何も結構之木棉御贈惠被下、御心切之段不淺忝拜納仕候、先ハ御返書迄、荒々如斯御座候、恐惶謹言、

八月二十日

鉄翁合掌

錦水老兄先生

侍史下

○一金子壺両

髓ニ落手仕候、何卒く御保養被成、御命長ク人ノ為ニ国ノ為ニ御ナリ被下度、小子ナトノ命コソ長クテイラヌモノ、貴君ノ御命ニモ小子が命ヲアゲツキ度、当九月十五日ハ貴君ノ為ニモ大般若ノ供養可仕候、毎年正、五、九月十五日於拙寺大般若供養仕候間、貴君ノ為ニモ当九月ヨリ祈念可仕候、小子カ志也、

二百

此節は栄助殿余リ之急キニ而御座候故、御親公へも不能別書、可然様御伝被下度奉願候、且又何かさし上度候得共、何カ行届不申、追而拜呈可仕候、何卒く今一度ハ御再遊被下度御待申上候、老母も宜敷申上候、候様申出候間、乍憚御親公方へも宜敷御申上被下度奉希、此度ハ右申上候通の火急之便故、何呈度候得共不及其

儀、幸為持合居候龍眼肉壺箱拜呈仕候、御笑納奉希候、

○誠々御ナツカシク奉存候、長崎の春徳寺ハウラメシトハヲモハズニ夢ニマデ御ラシ候由ウレシク存申候、小子も日日無事ニテ居申候、乍憚御安意被下度、心ニテヲモイ候ダケ、筆ニテハカケ不申、常々の文才無之、遠方の所ノ文ガムツカシクコマリ申候○普請モ今ハ成就ニナリ申候○御狀参日迄ハ大テイアンシマシタ事デハナク貴君ハ此世ニアル人カ無キ人カと病中ニ道中被成候事、返すくむりやりニ御留不申事ガノコリ多ク御座候所、御狀参り候テコソ始テ安心仕候、八月ニハナントカタユリアル事ト存マツテ居申候、栄助殿御狀持参早々取手モオソシト開封仕候、安心仕候、

○ナニも御養生被成被下かし、今一度ハ御越被下かし、

（以上円月堂文庫）

二十五、倉野儀七郎宛

去御地御家内皆々御揃御安全之由奉賀、拙僧モ今年七十有六、無別条消々光罷在申候、御安意可被下候、

先便ニは御年玉共御惠送忝拜受仕候、老僧及命中又々御再遊待上候、委細御使之伝言仕置、金地山水大延引之段モ申入候、古木竹石統本共待被下度、イマダサムク少々暖ヲ待居候、

（丙寅・慶応二年）  
寅二月十三日

倉野儀七郎様行

水墨観音大士蘭竹、大急故大不出来、多罪、

〔附・鉄翁宛書狀〕

一、木下逸雲出

今日御風邪之由之處、是非ねまきのま、ひけかミ生かぶりのま、にて一寸御出席被下候様山田生しきりニ願、外人も申遣し候てハとても出席モ如何と存候故、私も是非に願暮様申事也、

こねまきのま、にていかにも大目ニ而御出ハ如何、

たとへハ  
ヤレ〜  
カゴヨリ  
来タガ

(註・凶あり)

シントイ〜

鐵翁印

九秋十九 千よの

やとよ

逸雲記

尊上人御出席ノツモリニテ用意ハもちろんよほど別段ニ心配のよふす也、  
尤御出かごハまたせてほとなく御かへり有ても可然候歟、

鐵翁老上人下啓

弟相宰

二、田能村竹田

敬賀

新禧 法門吉慶 福徳無景、小生無事、

旧冬ハ逸雲高士一同ニ大教ヲ領、且藤籠

嘉祝、御懇篤之至、不知所謝候、扱近来御風

流之狀如何、江芸聞も帰帆、春中ニハ再

進崎館候也夏ニも入候也、御珍藏書画何

等之名品奇蹟也 高士御珍藏ハ如何也、当年ハ

貴鎮ニ游度存居候、此節此書托シ候ハ幣邑使

者岩瀬小平治と申候而小生極懇意ニ御座候、則石本

幸四郎方へ寓申候、定而貴山御過訪可申上候間

御逢可被下候、読書之士ニハ無御座候へとも随分好事

茶技好申候、些と雅談御面囑可被下候、小生春夏

之交、出于貴鎮候而上人始高士も御間暇ニ御座候

半也、朱柳橋當時在館也、上人ニハ春中ニハ豊前  
耶馬溪御遊之様ニも承知仕候、当地昨夜来、今朝ニ  
至リ大雪貢豊候、貴邑海山之間、定而御舟游詩画  
□□<sup>不明</sup>粉報御樂と羨妬仕候、客来旁早々御様子御  
尋被下、龜山窑茶盞御恵ミ被上事も承居候、何分坐  
下走謁領大教度、日夜引領西望仕候、何卒当春ハ  
果宿志、披雲親日申度候、何分何斥棄被下間敷候、  
満座俗客賀正雑沓喧嘩、早々擱筆、

田憲再拜

春徳和尚 獅座下

幣邑産香<sup>(しいたけ)</sup> 覃附呈仕候、御笑留可被下奉希候、

正月二日

長崎 春徳寺様 紙包添へ	豊後岡 田能村行蔵
正月二日発	

(以上反古庵所蔵)